

## 拠点校の事業実施報告書

拠点校名：郡上市立八幡小学校

## 1 年間スケジュールに基づいて実施した事業経過

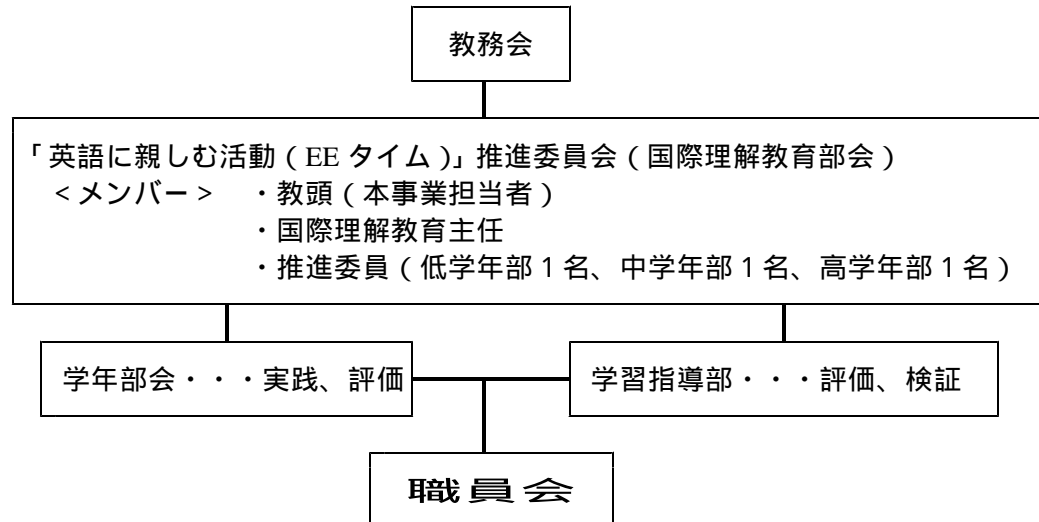
|     | 全校での動き  | 特記事項  |
|-----|---|---|
| 4月  | ・研究体制の立ち上げ(職員会)                                     | ・校内の推進委員決定<br>・「英語に親しむ活動(EEタイム)」で目指す児童の姿の共通理解<br>・単位時間の基本的な流れ等の確認 |
| 5月  | ・職員研修 (5 / 28)                                      | ・実践の中で大切にしたいことの再確認<br>・年間指導計画による年間の活動の見通し                         |
| 6月  | ・職員研修 (6 / 25)<br><br>・授業風景の記録(DVD)                 | ・クラスルームイングリッシュ、教材の使い方と活動の仕組み方(ワークショップ方式)<br>・アンケート質問項目の検討         |
| 7月  | ・岐阜大学短期留学生との盆踊り交流会実施(7 / 13)<br>・アンケート(第1回)の実施と結果分析 | ・郡上八幡国際友好協会との連携   |
| 8月  | ・職員研修 (8 / 22)                                      | ・互いの授業記録(DVD)視聴による振り返り<br>・日本人学校勤務経験者による国際理解に関する講話                |
| 9月  |   |   |
| 10月 | ・職員研修 (10 / 17)                                     | ・授業研修<br>・実践交流会での提案(指導案等)作成                                       |
| 11月 | ・教材の選定と購入<br>・小学校英語の動向について(職員会)                     | ・中教審教育課程部会審議の概要<br>・実践交流会準備(プレゼン等)                                |
| 12月 | ・美濃地区実践交流会(12 / 11)                                 | ・第5学年公開授業及び実践発表   |
| 1月  | ・アンケート(第2回)の実施と結果分析                                 |   |
| 2月  | ・拠点校連絡協議会(2 / 28)                                   | ・年間指導計画印刷・製本<br>・授業の流れのDVD作成                                      |
| 3月  | ・実践の成果等の報告及び普及                                      | ・年間指導計画製本、各校配付  |

## 2 本校における取組の具体的な内容

### 教員の指導力の向上のための取組について

#### (1) 推進体制（組織）の整備

「英語に親しむ活動（EE タイム）」推進委員会を設置し、具体的な研究内容、取組の方向付けを主な職務とし、本事業の担当者や学級担任だけに負担がかからないよう工夫した。



#### (2) 職員研修の実施

毎月の職員会や現職研修を利用し、英語活動にかかわる職員研修を行った。

##### < 4月 職員会 >

目指す児童の姿を共通理解した。このことによって、「なぜ、英語活動に取り組んでいくのか」という目的意識をもつことができた。

##### 【八幡小学校の「英語に親しむ活動（EE タイム）」で目指す児童の姿】

歴史と文化の町「八幡町」には、多くの観光客が訪れる。近年、外国人観光客の姿も見られるようになったこと、外国人 ALT と英語活動を継続していること等によって、児童は外国人に親しみをもち、外国の生活や文化への関心も高めている。一方、素朴で純朴ではあるが、自分に自信がない、一人でなかなか行動できないといった弱さももち合わせている。

そこで、国際理解活動の一環である「英語に親しむ活動（EE タイム）」を通して、自分を表現し、自ら考えて行動する力を身に付けた姿の具現を目指したい。

##### < 5月 職員研修 >

数時間授業を行った時期に、改めて大切にしたいことを確認した。その際に、教師や児童が実際に使えるとよい英語表現も提示するようにした。

##### 児童（係）を動かしましょう。

自分たちが「EE タイム」をつくっているという意識を児童にもたせるために、以下の2つを行うようにする。

授業の前に、職員室に ALT を迎えに行く。

係：Good morning, sennsei. It's EE TIME. Let's go.

歌を歌うときの CD（テープ）の機器準備と操作をする。

話の聞き方や話し方、姿勢等、「学び方」にこだわらしましょう。

児童が思わず引き込まれるような楽しい活動や、必然のある活動を考えるのはもちろんだが、楽しい活動を仕組むためには、きちんとした学びの姿勢が前提となる。他の教科と同じように、「話の聞き方」「話し方」「姿勢」にこだわる。

【児童を授業に引き込むための英語での声かけ】

- ・ OK? (児童が全員そろって大きな声で OK!! と答えるまで繰り返す。)
- ・ Hello? (Listen! を連呼するのではなく、Hello? と話しかけ、Hello. と返させ集中させる。)
- ・ Three, two, one! (カウントダウンして、さっと姿勢を正させる。)

単元を見通して、1時間の授業を考えましょう。

2～3時間を一単元として構想している。(1時間目は新しい単語や表現に慣れさせる時間、2時間目はそれらを使って活動する時間という構成を基本としている。)

ALT と打合せをするときも、次の1時間だけでなく、単元の中の位置付けを踏まえて、つながりを大切にしながら活動を仕組んでいくようにする。

< 6月以降の職員研修の主な内容は、「1年間スケジュールに基づいて実施した事業経過」を参照 >

効果的な指導方法の工夫改善について

(1) 授業の流れについての共通理解と実践上の留意点

【単位時間の基本的な流れ】

- |   |  |
|---|--|
| はじめのあいさつ・英語の歌<br>天候や日付・曜日<br>ALT's Topics | * 児童の係を中心にして進める。<br>* ALT が学年に応じて質問する形で進める。<br>* 活動内容に合わせて、ALT が外国の文化や暮らしについて話す。     |
| 課題提示<br>活動                                | * 必ず学級担任が行う。<br>* 活動の仕方については、学級担任と ALT がモデルを示す。                                      |
| 評価  | * 学級担任と ALT の両者が行う。(学級担任は前回と比較した頑張りや仲間とのかかわりについて、ALT は、コミュニケーションにかかわる態度や技能について評価する。) |
| おわりのあいさつ                                  | * 児童の係を中心にして進める。   |

- < 留意点 >
- 逐一日本語に訳さない。
  - 英語の発音を安易にカタカナに置き換えない。
  - 無理に覚えさせない。
  - 誤りを細かく訂正しない。
  - いろいろな学習内容や学習形態を工夫する。

(2) 学級担任と ALT の連携及び役割の明確化

- ・学級担任が ALT との連携を図ることとした。
- ・学級担任が T 1 として授業を行うこととし、T 1 として位置付くためのポイントを明示した。(基本的な流れの中の「課題提示」、「活動」のモデル、「評価」の3点は必ず学級担任が行うことを確認)

(3) 活動内容及び教材・教具の工夫

コミュニケーションに対する関心・意欲を、積極的に取り組む姿で具現したい。このことが八幡小学校が英語活動に取り組む大きな願いである。したがって、発達段階や児童の実態を基盤とした活動内容や教材・教具の工夫は欠くことのできない重要な事項である。そこで、次のような仮説を立て、取り組んだ。

|       |   |
|-------|---|
| 高 学 年 | 英語を用いて、自分と同じカードを持っている相手を見つけるといったインフォメーションギャップを取り入れた活動や、学級のデータ集めといった活動の意義や目的のはっきりした活動等を楽しませることによって、知的好奇心を刺激し、積極的な態度を具現できる。 |
| 低・中学年 | カルタやどんじゃんけん、ごっこ遊び等、単純なルールででき、繰り返しが多い活動を通して、やりとりを楽しませることで、関心や意欲を高めることができる。   |

<実際に使用している自作教材の例>



【ペアさがしカード】



【オープンザウインドウ】

ALT や地域人材等の効果的な活用について

(1) 授業で実現できる国際感覚を探る。

外国人や外国の異文化に対する興味・関心を深めるという目的は、ALT の有効活用によって実現できる。 ALT's Topic の位置付け

(2) 授業以外で、外国の文化にふれ、関心を高める活動を探る。

外国人や外国の異文化に対する興味・関心を深めるという目的は、国際理解教育部会の取組の工夫によって実現できる。 JM タイム (給食中の全校 TV 放送) の位置付け

(3) 八幡の国際友好協会との連携によって、外国人とふれあい、児童自ら八幡の文化を発信できる機会を探る。

これまで培ってきた国際感覚を確かにし、積極的に「八幡の文化」を発信することで、自信と自己の高まり(成長)を実感できる。 留学生との交流会の実現

児童の興味・関心等学習状況の変容の把握について

全校児童を対象に、年に2回(7月、1月)英語活動についてのアンケートを行った。

【アンケート質問項目】

あなたは「英語に親しむ活動(EE タイム)」が楽しいですか。

これまでより、「英語に親しむ活動(EE タイム)」で先生たちが話していることがわかるようになったと思いますか。

これまでより英語を使えるようになったと思いますか。

もっと英語がわかるようになりたいと思いますか。

「英語に親しむ活動（EE タイム）」で、どんなことが楽しかったですか。（記述）  
 「英語に親しむ活動（EE タイム）」で、もっとやってみたいことは何ですか。（記述）

その他（中学校との連携，ICT の効果的な活用等）

- ・小・中学校のメンバーからなる郡上市教育研究会の「国際理解教育部会」にて、授業提供や実践資料、教材の紹介等の情報発信を行った。
- ・郡上市教育委員会と連携をとりながら、市内のネットワークに年間指導計画を資料提供し、中学校の教員も小学校で指導している内容を閲覧できるようにした。

### 3 本校における取組の成果等

教員の指導力向上

- ・授業の基本的な流れや学級担任が T 1 として位置付くための具体的なポイントを示し、共通理解を図ったことにより、学級担任がより自信をもって授業ができるようになった。

4 月、英語が苦手な自分が、担任として英語活動の指導ができるのか不安をもっていた。児童も、新しい仲間とコミュニケーションすることに、大きな不安を感じていた。しかし、職員研修を重ねるうちに、担任が T 1 として指導することのよさや、指導のポイントについて学び、徐々に自信を持って指導できるようになってきた。それに伴って、児童も、英語活動を通して、男女誰とでも交流したり、仲間を信じて、失敗を恐れずに交流できるようになってきた。その姿が、他教科の授業や生活にも反映され、願う学級作りへとつながってきたと感じている。

（平成 19 年 12 月 11 日実践交流会における第 5 学年学級担任の言葉から）

- ・実際に英語活動の授業を見て研修する機会をもったことで、学級担任がより具体的な動き方についてのイメージをもったり、児童の実態に応じた活動内容や教材の工夫をしたりすることができた。

#### ○ 児童の学習状況の変容

- ・実践を通して、「自分を表現し、自ら考えて行動する力を身に付けた姿」が見られるようになってきた。具体的には、次のような変容が見られる。

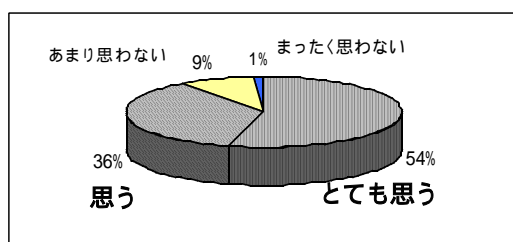
【自分を表現し、自ら考えて行動する力を身に付けた姿】

- ・相手と向かい合いながら、身振り手振りを交えて伝えようとする姿が増えてきた。
- ・目や口元を見ながら、聞き取ろう、理解しようとする姿が増えてきた。
- ・自分から進んで話しかける姿が増えてきた。

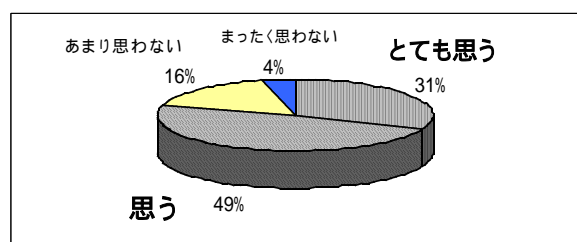
- ・また、児童の多くが、英語を使った活動に親しみ、楽しく取り組んでいることが、アンケートの結果からわかる。

#### 【アンケート結果（1月）より】

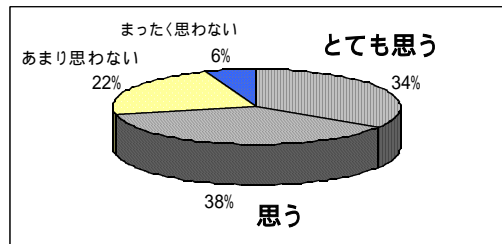
あなたは EE タイムが楽しいですか。



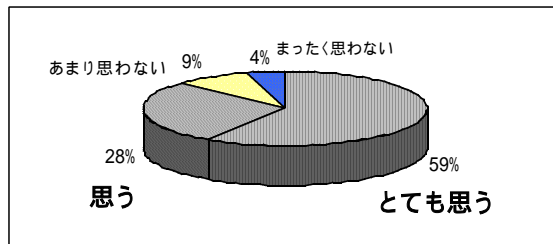
これまでより、EE タイムで先生たちの話していることがわかるようになったと思いますか。



これまでより、英語を使えるようになったと思いますか。



もっと英語がわかるようになりたいと思いますか。



|      | どんなことが楽しかったですか。  |   | もっとやってみたいことは何ですか。   |   |
|------|--|---|---|---|
|      | 7月   | 1月  | 7月  | 1月  |
| 第5学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビンゴ</li> <li>・すごろく</li> <li>・じゃんけんゲーム</li> <li>・英語で外国の人と話すこと</li> <li>・英語の歌</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・すごろく</li> <li>・英語で学級の友だちと話すこと</li> <li>・外国の話を聞くこと</li> <li>・ALTと話すこと</li> <li>・ビンゴ</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビンゴ</li> <li>・すごろく</li> <li>・英語の歌</li> <li>・英語で外国の人と話すこと</li> <li>・カード(クリスマス等)作り</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな英語を使うこと</li> <li>・ALTの出身国の話を聞くこと</li> <li>・いろいろな外国の人と話すこと</li> <li>・道案内</li> <li>・すごろく</li> </ul>                |
| 第6学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・すごろく</li> <li>・ペア探しゲーム</li> <li>・英語で外国の人と話すこと</li> <li>・ビンゴ</li> <li>・英語の歌</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語で学級の友だちと話すこと</li> <li>・いろいろな英語の言い方がわかって使えたこと</li> <li>・班で協力する活動</li> <li>・すごろく</li> <li>・ペア探しゲーム</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・すごろく</li> <li>・英語の歌</li> <li>・英語で外国の人と話すこと</li> <li>・ペア探しゲーム</li> <li>・伝言ゲーム</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語で学級の友だちと話すこと</li> <li>・いろいろな英語を使うこと</li> <li>・英語の歌</li> <li>・いろいろな外国の人と話すこと</li> <li>・外国の文化や行事について話を聞くこと</li> </ul> |

記述の多かったものの順番に上から記載

#### < アンケート結果の考察 >

結果から、以下のようなことが言える。

- ・「楽しい」「もっとわかるようになりたい」と答えている児童の割合が9割に達しており、児童の英語活動に対する意欲や願いがとても高い。
- ・「楽しかった」「もっとやってみたい」という内容について、ゲームや活動そのものをあげていたものが、互いに理解し合うといったコミュニケーションに喜びを感じるようになっている。

さらに、前述した「自分を表現し、自ら考えて行動する力を身に付けた姿」と合わせて考えると、次のような意識の高まりがとらえられる。

#### 誰とも話したり、かかわろうとする意識が高まっている。

単純でゲーム的な要素を含むような活動からスタートして、次第にインフォメーションギャップを取り入れた活動を工夫してきたことは、自然に多くの学級の友だちと情報交流をする機会や必然を生み出してきた。

さらに、「男女誰とも交流する」「相手の目を見て話す」等、学級づくりや学習集団づくりで大切にしていることにこだわって授業を進め、終末の評価で価値付けてきたことで、児童が身近な相手とのコミュニケーションに楽しさや喜びを感じるようになってきた。

#### もっと外国の人たちの暮らしを学びたい、もっとALTの話が聞きたいなど、国際理解にかかわる意識が高まっている。

活動で扱う内容との関連を図りながら、授業におけるALT's Topicsや、給食中の全校放送を利用して異文化にふれる機会を作ってきた。また、「郡上八幡国際友好協会」と連携して、留学生を招き、伝統文化である「郡上踊り」を通じた交流会を開催した。

これらのことから、児童は、より外国や異文化に興味・関心をもつようになったと考える。また、同時に、自分たちの町のよさや文化について改めて着目し、それらを発信してみたいという意欲をもつようになっている。